

2018年10月2日掲載

「SNS がつないだ思い」

先月の北海道胆振東部地震でのこと。地震発生の翌日、札幌市内に住むママ友から「知り合いの先生から至急メッセージを拡散してほしいと依頼が来た」と連絡があった。内容は、「厚真町の避難所で指揮を執っている役場職員、ウェットティッシュを求めている。しかし情報発信ができず困っている」というもの。

すぐに自分で届けたい気持ちはあったが、息子の保育園は休園、ガソリンも十分ではない。せめてこの情報が広がってほしいと SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）でシェアした。

その翌日。私の SNS をさらにシェアしてくれた友人から「知人の健康管理士がぜひ届けたいと言っている」と知らせがあった。すぐに健康管理士さんに連絡を取ってみると、ウェットティッシュを購入し、役場職員のいる避難所近くの避難所までは行けることが分かった。役場職員の名前を伝え、ウェットティッシュの入った段ボール箱に名前を書いて避難所に置いてきてくれることになった。

その夜、冒頭の札幌のママ友が「ウェットティッシュが届いたようだ」と、知り合いの先生から連絡があった」と知らせてくれた。私と健康管理士さん、職員の方も全く面識はなかったが「被災地で困っている人を助けたい」という思いが互いを引き寄せ、つながったのだと感じる。

道内はまだ流通、観光、農業など、さまざまな面で影響が出ている。少しでも自分にできることを探していけたらと思う。

（毎日新聞より）